少年センターだより

平成２８年２月２５日
発　行
日野町少年センター
日野町河原１丁目１番地
TEL/FAX　0748-53-1325
http://www.rmc.ne.jp/h.g-s.c

「未来の子も達のために」

日野町少年センター運営委員会会長
藤澤直広

暖冬と言われていた季節も、大寒には日本各地に大雪をもたらし、綿向山も雪化粧に覆われました。

平素は、補導委員をはじめとする各関係団体の皆様に格別のご尽力を頂き、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

さて、昨年は日野町合併六十周年の年、戦後七十年の年でした。当町では各種団体で構成した実行委員会のもと、様々な平和祈念の事業を開催しました。それは、私たち大人が、子どもたちの未来のため、平和な社会をつくることの最大の使命であるとの思いからでもあります。

昨年、十一月に開催された青少年意見発表の中でも、小学校六年生と中学三年生の二人から平和を願う意見発表がされました。二人には表現こそ違え、共通点がありました。

「戦争を体験していない私たちは、戦争について学び、それを受け止めるべき」「残酷な戦争を後世に伝えていかなければならない」「戦争を起こさないように努力することができるのは、私たち」であると・・・。戦争の悲惨さを継承することがとても大切なことであると痛感しました。

また、この国では人口減少社会、東京一極集中、地方の活性化が課題となっています。日野町には自然環境があり人々が共に生きる社会があります。田舎こそが人間社会の原点であるという田園回帰の流れが広がっています。こうした流れを受け、日野町が取り組んでいる空き家登録制度においても三十四家族、九十二人の方が移住をされて来ています。

また田舎体験の取組みでは、毎年三千人を超える子ども達がやって来て、自然と地域の中で時間を過ごし、感動体験をします。人の根本は、人が助け合って生きるということです。そんな社会が日野町にはあります。「人というものは、ええもんやなぁ」その原点に気付く時、人は前に向いて生きて行けると思います。

今年は日本国憲法公布七十周年の年。私たち大人が、二度と戦争をしないと誓い、子ども達が地域に誇りと愛着を持てるよう、平和な町、元気で温かい町、住み続けたい町、住んでみたい町をつくるため、共に力を合わせましょう。

万引き防止教室・薬物乱用防止教室開催

桜谷幼児園万引き防止教室

日野町少年補導委員会と日野町少年センターでは、東近江警察署生活安全課の協力を得て、十二月十八日に、桜谷幼児園で万引き防止教室を開催しました。

少年補導委員が、幼稚園から小学校低学年用に作成したペープサートの劇「おみせのものをとったらどろぼうですよ」を上演しました。

万引きの話は、幼稚園児には少し難しい内容かもしれませんが、「欲しい物があってもお店の物はお金を払わないといけないこと」や「他人の物と自分の物は違うこと」を小さい時からしっておうと制作しました。

上：桜谷幼児園での様子
右：ペープサート裏側では
少年補導員が奮闘

左：南比都佐小学校
薬物乱用防止教室
下：桜谷小学校薬物
乱用防止教室

南比都佐小学校・桜谷小学校では
薬物乱用防止教室

一月二十六日南比都佐小学校、二月一日桜谷小学校では、日野ライオンズクラブと東近江警察署生活安全課、日野町少年センターが薬物乱用防止教室を開催しました。

ＤＶＤを見たり、日野ライオンズクラブの腹話術でクイズを交えたお話がありました。

薬物を乱用すると脳が破壊されることや自分だけでなく家族や社会にも迷惑がかかること、「やせて綺麗になるよ」「頭がよくなるよ」など薬物乱用への甘い誘いにはキッパリ断る、その場を離れることを聞きました。

また、東近江警察署からは、薬物だけでなくお酒やたばこも未成年はダメです。飲んだり吸った本人も補導されるけど、売った人や場所を提供した人も罰せられますとお話がありました。

桜谷小学校では、薬物乱用防止教室の感想を「薬は病気を治す味方にもなるけれど、敵にもなることが分かった」「薬物乱用はダメ、ゼッタイということがよく分かった」と話してくれました。

最後に、みんなで薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」と約束しました。

3月の活動予定

４日　街頭補導
８日　有害図書等立入調査
１１日　街頭補導
１５日　日野中学校卒業式
　　町外量販店パトロール
１７日　少年補導委員会幹事会
１８日　街頭補導
２２日　有害図書等立入調査
２５日　街頭補導

センター職員随時パトロール

薬物乱用
「ダメ。ゼッタイ。」

東近江署管内の少年非行

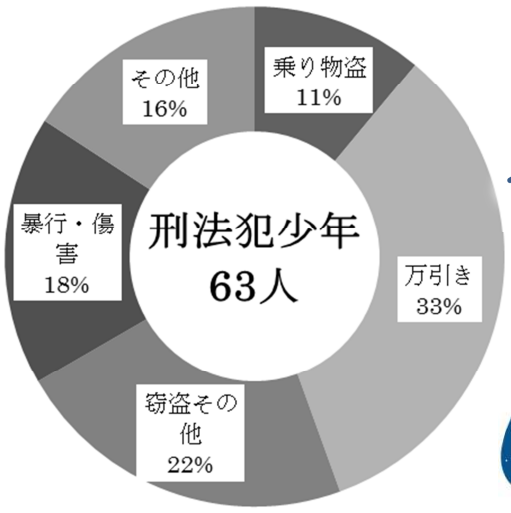
1 平成27年中の少年の検挙・補導状況

		平成27年	平成26年	前年比
刑法犯少年	犯罪少年	42	72	▼ −30
	うち女子	3	8	▼ −5
	触法少年	21	27	▼ −6
	うち女子	3	1	△ 2
	小計	63	99	▼ −36
	うち女子	6	9	▼ −3
特別法犯少年		7	14	▼ −7
	うち女子	0	0	
ぐ犯・不良行為少年		521	788	▼ −267
	うち女子	75	129	▼ −54
合計		591	901	▼ −310
	うち女子	81	138	▼ −57

★☆★用語説明★☆★

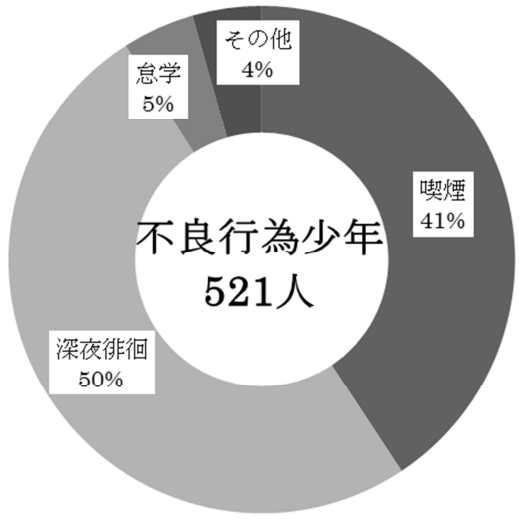
○犯罪少年・・・14 歳以上 20 歳未満で、罪を犯した少年（交通事故による業務上過失犯を除く）
○触法少年・・・14 歳未満の少年で、刑罰法令に触れる行為をした少年
○刑法犯少年・・・犯罪少年と触法少年の総称
○特別法犯少年・・・20 歳未満の少年で、特別法令に違反する行為をした少年（交通関係法令違反を除く）
○ぐ犯・不良行為少年・・・不良行為（罰則の適用はないが、喫煙等少年の健全育成上やめさせるべき行為）をしている者で、そのまま放置すると非行に進む危険性のある少年
○非行少年・・・前記少年の総称

2 刑法犯少年の状況



刑法犯で検挙や補導をされた少年のうち、万引きや自転車盗等の窃盗で捕まった少年が、全体の 66%を占め、最も多くなっています。
次に多いのが、子ども同士のトラブル等による暴行や傷害です。
その他では、公務執行妨害で２人の少年を逮捕する等しました。

3 不良行為少年の状況



子どもの深夜の外出は危険です。
保護者の方は、特別な理由がある場合を除き、深夜（特に午後 11 時から午前５時までの間）に 18 歳未満の子どもを外出させないように努めてください。

インターネット利用によるトラブルを防ぐために

滋賀県警察サイバー犯罪対策室が、日野中学校１年生を対象に携帯安全安心教室」を開催しました！

トラブルを防ぐための７つの約束
1 あやしいサイトには絶対にアクセスしない。
2 利用する時間を決める。
3 インターネット上に名前や住所などの個人情報をのせない。
4 他人にＩＤ・パスワードを教えない。
5 ゲームのやり過ぎ（課金行為）に注意する。
6 フィルタリングソフトを導入する。
7 困ったときは、大人に相談する。

写真(平成 28 年 1 月 15 日日野中学校)

ダメ。ゼッタイ！薬物乱用

日野ライオンズクラブや東近江警察署等が、南比都佐小学校６年生を対象に「薬物乱用防止教室」を開催しました！

自分だけは大丈夫だと思っていませんか？
やめたくても、やめられなくなるのが薬物の怖さです。
たった１回でも薬物乱用になります。
薬物の乱用は、法律で厳しく処罰されます。
そして、あなたの人生を破滅させます。
無責任な甘い誘いにのってはいけません。
断る勇気があなたを守ります。

写真(平成 28 年 1 月 26 日
南比都佐小学校)

訂正とお詫び

少年センターだより平成 27 年 11 月 12 日号の東近江警察署日野警部交番所長の「非行少年に思うこと」の文章中『傷害』が『障害』となっていました。
正しくは『傷害』です。ここに訂正してお詫び申し上げます。

１人で悩まないでまずは相談を

少年センターでは、少年に関する悩みや心配ごと相談を行っています。本人だけでなく、家族の方の相談も受けています。
無職少年の就労・就学の支援も行っています。
お気軽にお越しください。秘密は厳守します。

○電話相談　○面接相談　○相談時間：月～金　9:00～16:30

日野町少年センター　（日野町勤労福祉会館　２階）
電話0748－53－1325
E-mail hino.t-syonen.c@rmc.ne.jp

「ひとりごと」

梅の香りが漂い、春はもうすぐそこまでという今日この頃ですが、久しぶりにいい歌謡曲に出会いました。〝心をつなぐ10円玉〟八代亜紀さんが歌っています。皆さんも一度聞いて下さい、きっと心に響くかな?と思います。

歌詞の内容を少し紹介しますと私たちの時代、遠い昭和の年代ですが、卒業間近の最後の授業で先生が生徒さんに小さな袋に入った10円玉を一人一人に手渡し「苦しい時には電話をかけてこい、君は独りじゃないんだよ、どんな時でも電話をかけてこい。」その小さな袋の10円玉と言葉は今も私の宝物という内容の歌詞です。

今の時代に10円玉で電話とはピンと来ないかも知れませんが、作詞家の先生には今の少年達の心を的確に捉え気持ちがわかっているように思えてなりません。

携帯やスマートフォンの現代でも同じことが言えると思います。悩みがあれば一人で悩まず、最も身近な保護者や家族に相談、恩師の先生に相談、少年センターでもいいです、相談するところは一杯あります。自分一人で悩まないで、行動を起こす前にまず相談、テレビや新聞のニュースにならないように、卒業される皆さんに限らず高校生や中学生に贈りたい歌謡曲「心をつなぐ10円玉」です。

編集後記の「ひとりごと」もいよいよ最終回となりました。次回からは新しい企画で読んでいただけるようになると思います。今後も「少年センターだより」ともどもよろしくお願いいたします。